

# 2012年3月期 第2四半期 決算説明会

2011年11月10日

 **古河機械金属株式会社**

\* 本資料の予想につきましては、説明会開催日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

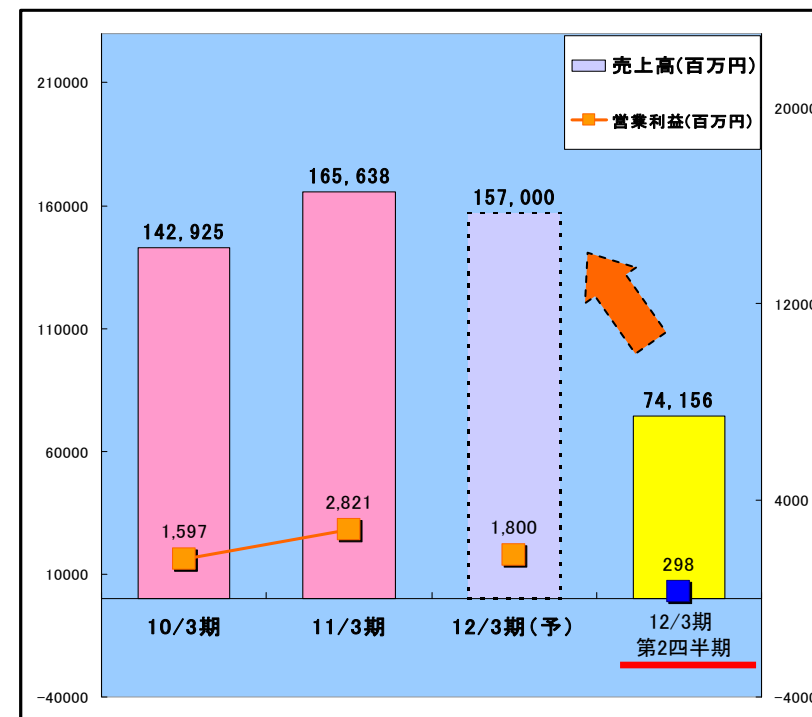
## 〔業績〕

(単位:百万円)

	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	対前年同期 増減	11年3月期	12年3月期 予想	対11/3期 増減
売上高	81,458	74,156	△7,301	165,638	157,000	△8,638
営業利益	260	298	37	2,821	1,800	△1,021
経常利益	△629	△345	284	1,231	300	△931
当期純利益	△236	△3,259	△3,022	563	△3,000	△3,563

## 〔財務状況〕

		11年3月期	12年3月期 第2四半期	対11/3期 増減
総資産	百万円	196,234	189,710	△6,524
純資産	百万円	47,622	44,631	△2,991
自己資本比率	%	23.4	22.7	△0.7



# 部門別業績及び予想(連結)

〔売上高〕 (単位:百万円)

	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	対11/3期増減	対11/3期比
機械部門	22,524	24,987	2,463	111%
(産業機械)	(4,562)	(4,985)	(422)	109%
(開発機械)	(11,551)	(12,768)	(1,217)	111%
(ユニック)	(6,410)	(7,233)	(823)	113%
金属部門	39,811	31,436	△8,374	79%
電子部門	3,876	2,521	△1,355	65%
化成品部門	2,485	2,678	193	108%
塗料部門	7,578	7,443	△135	-
不動産部門	848	634	△213	75%
燃料部門	3,934	4,061	127	103%
その他	399	392	△7	98%
合計	81,458	74,156	△7,301	91%

(単位:百万円)

11年3月期	12年3月期予想	対11/3期増減	対11/3期比
47,025	53,650	6,624	114%
(10,655)	(13,250)	(2,594)	124%
(23,880)	(25,200)	(1,319)	106%
(12,490)	(15,200)	(2,709)	122%
79,979	65,000	△14,979	81%
7,147	5,900	△1,247	83%
5,076	5,400	323	106%
15,040	15,000	△40	100%
1,577	1,200	△377	76%
9,004	10,050	1,045	112%
785	800	14	102%
165,638	157,000	△8,638	95%

〔営業利益〕 (単位:百万円)

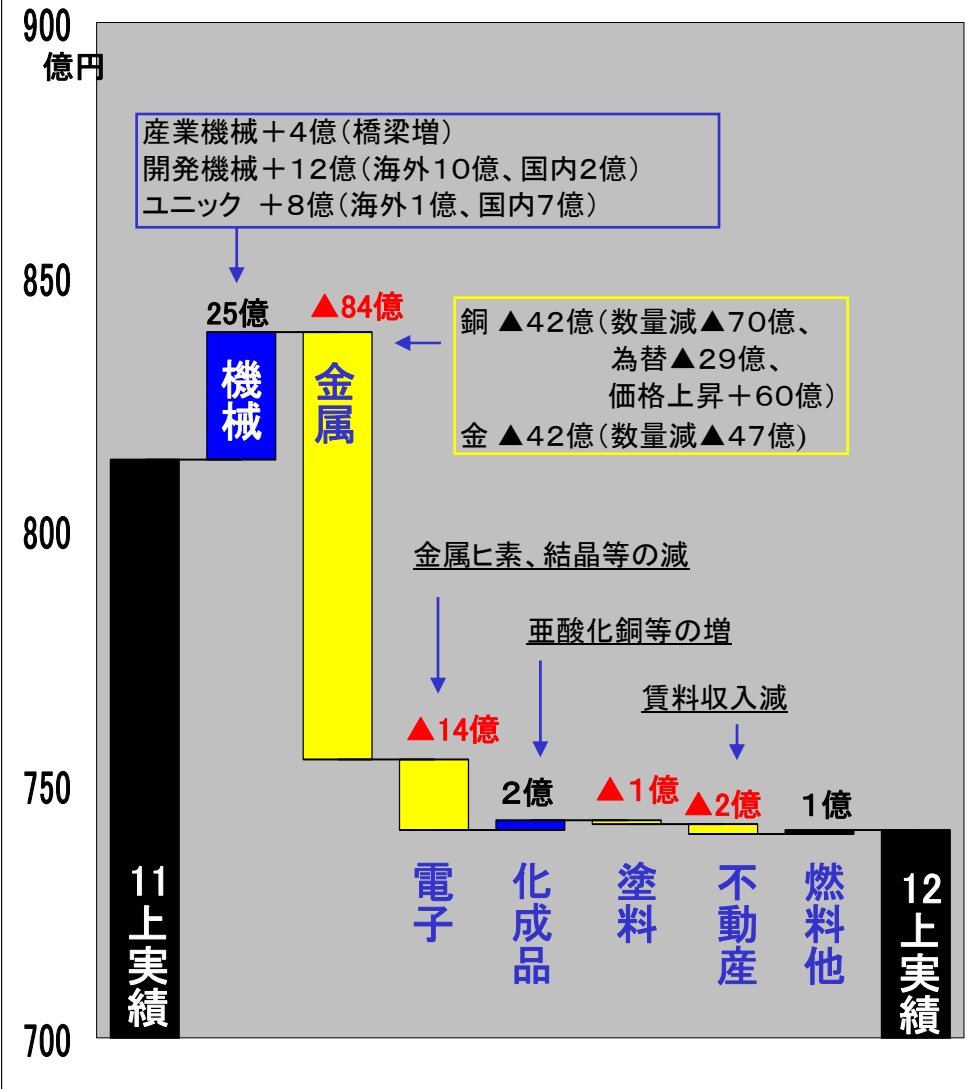
	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	対11/3期増減
機械部門	△818	213	1,031
(産業機械)	(△246)	(△87)	(158)
(開発機械)	(△422)	(126)	(549)
(ユニック)	(△149)	(174)	(324)
金属部門	△7	89	97
電子部門	770	△9	△780
化成品部門	114	127	12
塗料部門	△21	△199	△177
不動産部門	344	198	△145
燃料部門	△39	△22	17
その他	△56	△63	△6
調整額	△25	△36	△11
合計	260	298	37

(単位:百万円)

11年3月期	12年3月期予想	対11/3期増減
△566	1,500	2,066
(△29)	(650)	(679)
(△350)	(300)	(650)
(△186)	(550)	(736)
1,494	△100	△1,594
1,279	200	△1,079
269	300	30
△93	△300	△206
635	350	△285
△56	0	56
△92	△100	△7
△49	△50	0
2,821	1,800	△1,021

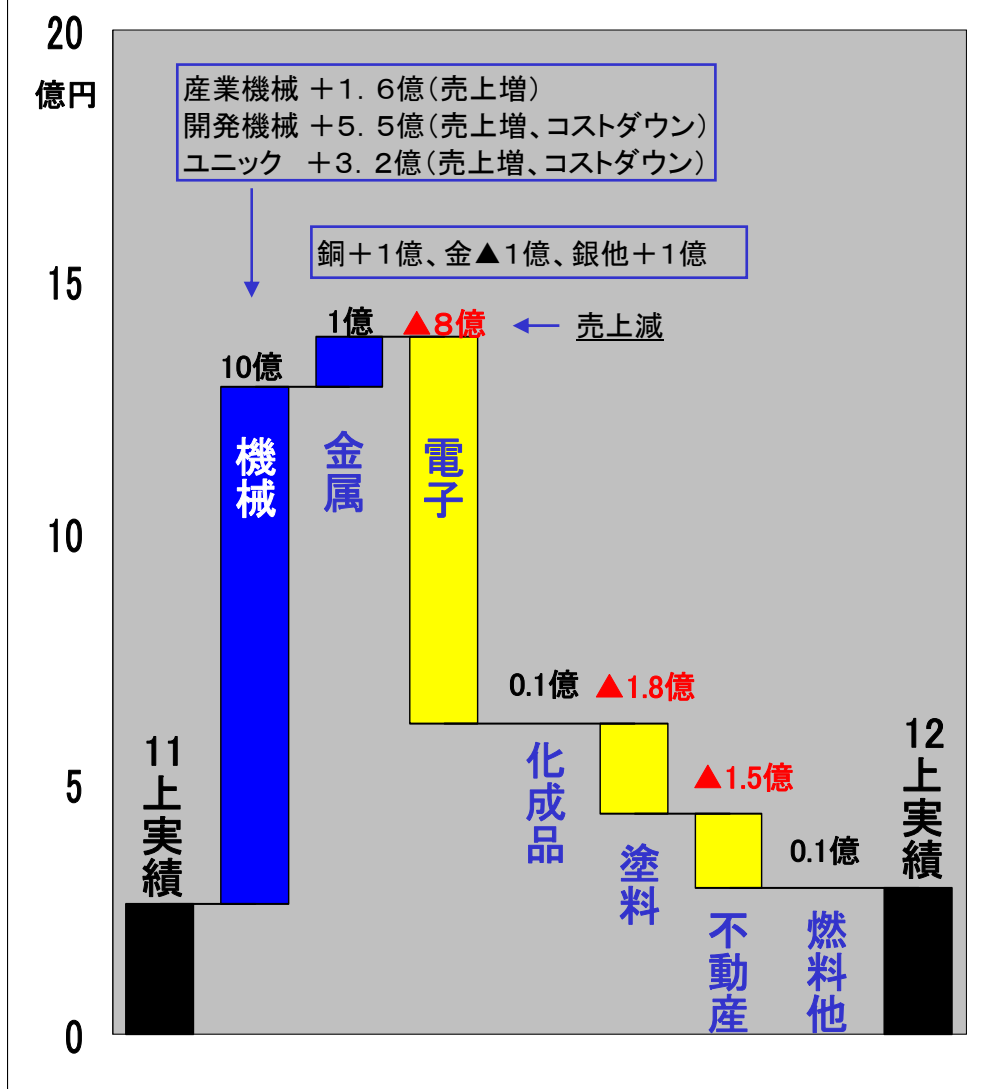
## 売上高

814 億 → 73億減(9%減) → 741 億



## 営業利益

2.6 億 → 0.4億増(14%増) → 3 億



(単位:百万円)

	11/3月期 第2四半期	12/3月期 第2四半期	対11/3期増減
<b>売上高</b>	<b>81,458</b>	<b>74,156</b>	<b>△7,301</b>
売上原価	72,858	65,156	△7,701
売上総利益	8,600	9,000	399
販売費及び一般管理費	8,339	8,702	362
<b>営業利益</b>	<b>260</b>	<b>298</b>	<b>37</b>
営業外収益	608	626	17
受取配当金	260	208	△52
その他	347	417	70
営業外費用	1,499	1,269	△229
支払利息	782	706	△76
休鉱山管理費	296	319	22
その他	420	244	△176
<b>経常利益</b>	<b>△629</b>	<b>△345</b>	<b>284</b>
特別利益	219	17	△201
固定資産売却益	71	6	△65
負のれん発生益	-	8	8
事業譲渡益	135	-	△135
その他	12	2	△9
特別損失	417	3,526	3,109
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	109	-	△109
投資有価証券評価損	9	3,236	3,226
その他	298	290	△8
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>△828</b>	<b>△3,853</b>	<b>△3,025</b>
法人税、住民税及び事業税	206	163	△43
法人税等調整額	△773	△549	223
少数株主利益(△損失)	△25	△207	△182
<b>当期純利益</b>	<b>△236</b>	<b>△3,259</b>	<b>△3,022</b>

当社保有上場会社株式の  
株価下落に伴う減損処理による

# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	11年3月期	12年3月期 第2四半期	対11/3期増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	80,199	77,508	△2,690
固定資産	116,035	112,201	△3,833
有形固定資産	85,657	85,164	△493
無形固定資産	836	752	△84
投資その他の資産	29,540	26,285	△3,255
<b>資産合計</b>	<b>196,234</b>	<b>189,710</b>	<b>△6,524</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	70,456	69,322	△1,133
固定負債	78,156	75,756	△2,399
<b>負債合計</b>	<b>148,612</b>	<b>145,079</b>	<b>△3,533</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	45,472	42,267	△3,204
資本金	28,208	28,208	-
利益剰余金	17,309	14,105	△3,204
自己株式	△45	△45	△0
その他の包括利益累計額	376	790	413
新株予約権	53	53	-
少数株主持分	1,720	1,519	△200
<b>純資産合計</b>	<b>47,622</b>	<b>44,631</b>	<b>△2,991</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>196,234</b>	<b>189,710</b>	<b>△6,524</b>

現金及び預金、受取手形及び売掛金、  
上場株式の株価下落による投資有価証券  
の減等による資産の減少

長期借入金の減少等による負債の減少

四半期純損失の計上により  
利益剰余金の減少等

## ■有利子負債

(単位:百万円)

	11年3月期	12年3月期 第2四半期	対11/3期増減
短期	12,858	12,902	44
長期	76,406	74,565	△1,840
<b>有利子負債合計</b>	<b>89,264</b>	<b>87,468</b>	<b>△1,796</b>

# 12年3月期業績予想(連結)と主な増減説明

(単位:百万円)

	11年3月期	12年3月期 予想	対11/3期 増減
売上高	165,638	157,000	△8,638
営業利益	2,821	1,800	△1,021
経常利益	1,231	300	△931
当期純利益	563	△3,000	△3,563

## 〔前提条件〕

	12年3月期 上期実績	12年3月期 下期想定
銅 価	9,072 \$/ト	7,500 \$/ト
為 替	79.8円/\$	76.0円/\$

## 〔売上高〕

(単位:百万円)

	12年3月期 予想	対11/3期 増減	主な増減説明
機械部門	53,650	6,624	
（産業機械）	(13,250)	(2,594)	環境機械、橋梁等の売上増
（開発機械）	(25,200)	(1,319)	アジア、北米など海外売上9億円増 並びに国内復興需要による出荷増
（ユニック）	(15,200)	(2,709)	国内復興需要による売上増および海外の拡販
金属部門	65,000	△14,979	銅、金の販売数量減および円高による売上減
電子部門	5,900	△1,247	高純度金属ヒ素、結晶製品等の出荷減
化成部門	5,400	323	めっき用酸化銅等の売上増
塗料部門	15,000	△40	
不動産部門	1,200	△377	日本橋室町東地区再開発に伴う古河ビル建替による賃貸収入減
燃料部門	10,050	1,045	販売単価アップ等による売上増
その他	800	14	
合計	157,000	△8,638	

## 〔営業利益〕

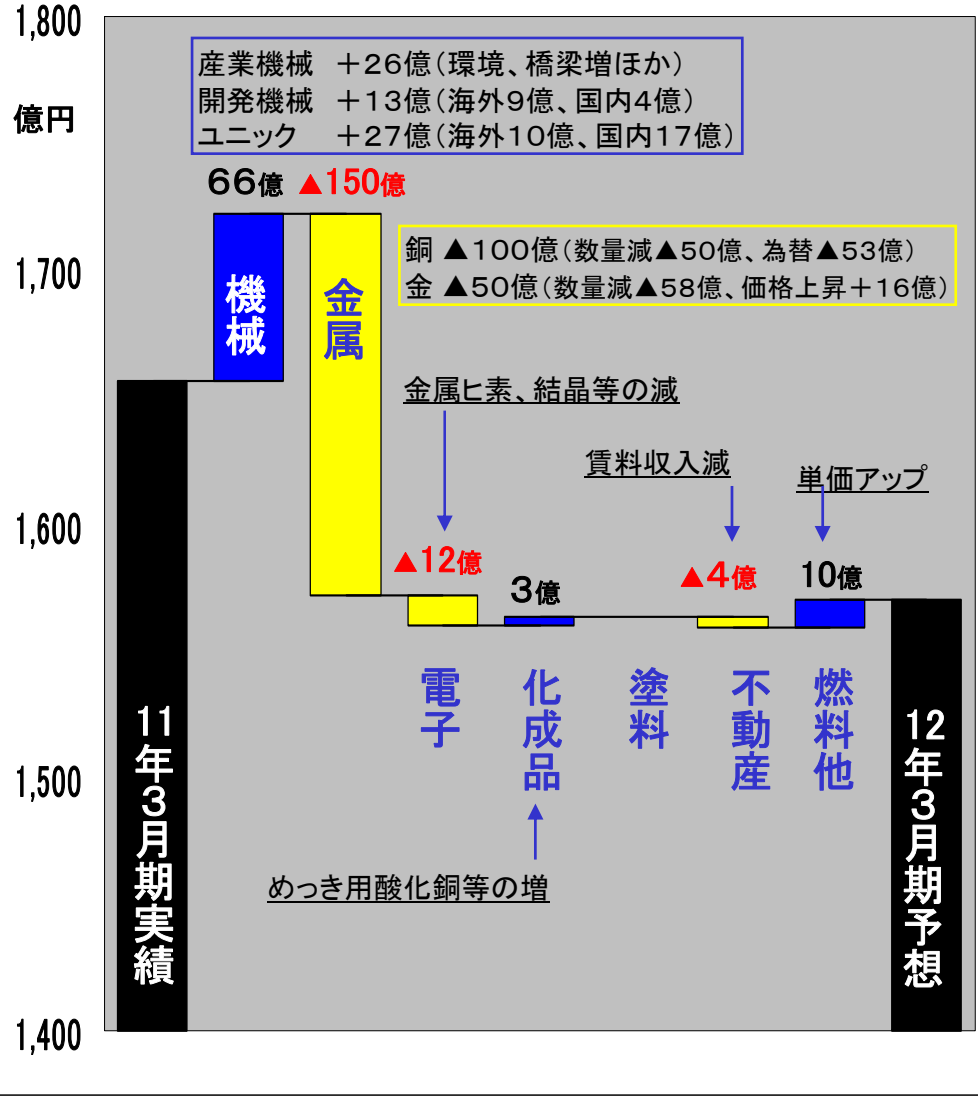
(単位:百万円)

	12年3月期 予想	対11/3期 増減	主な増減説明
機械部門	1,500	2,066	
（産業機械）	(650)	(679)	売上増による利益増
（開発機械）	(300)	(650)	売上増、コストダウンによる利益増
（ユニック）	(550)	(736)	売上増、コストダウンによる利益増
金属部門	△100	△1,594	銅、金等の販売数量減 並びに円高による採算悪化
電子部門	200	△1,079	売上減による利益減
化成部門	300	30	
塗料部門	△300	△206	原材料価格上昇などによる採算悪化
不動産部門	350	△285	古河ビル建替による賃貸収入減による利益減
燃料部門	0	56	
その他	△100	△7	
調整額	△50	0	
合計	1,800	△1,021	

# 部門別業績予想の増減(連結)／対前年同期

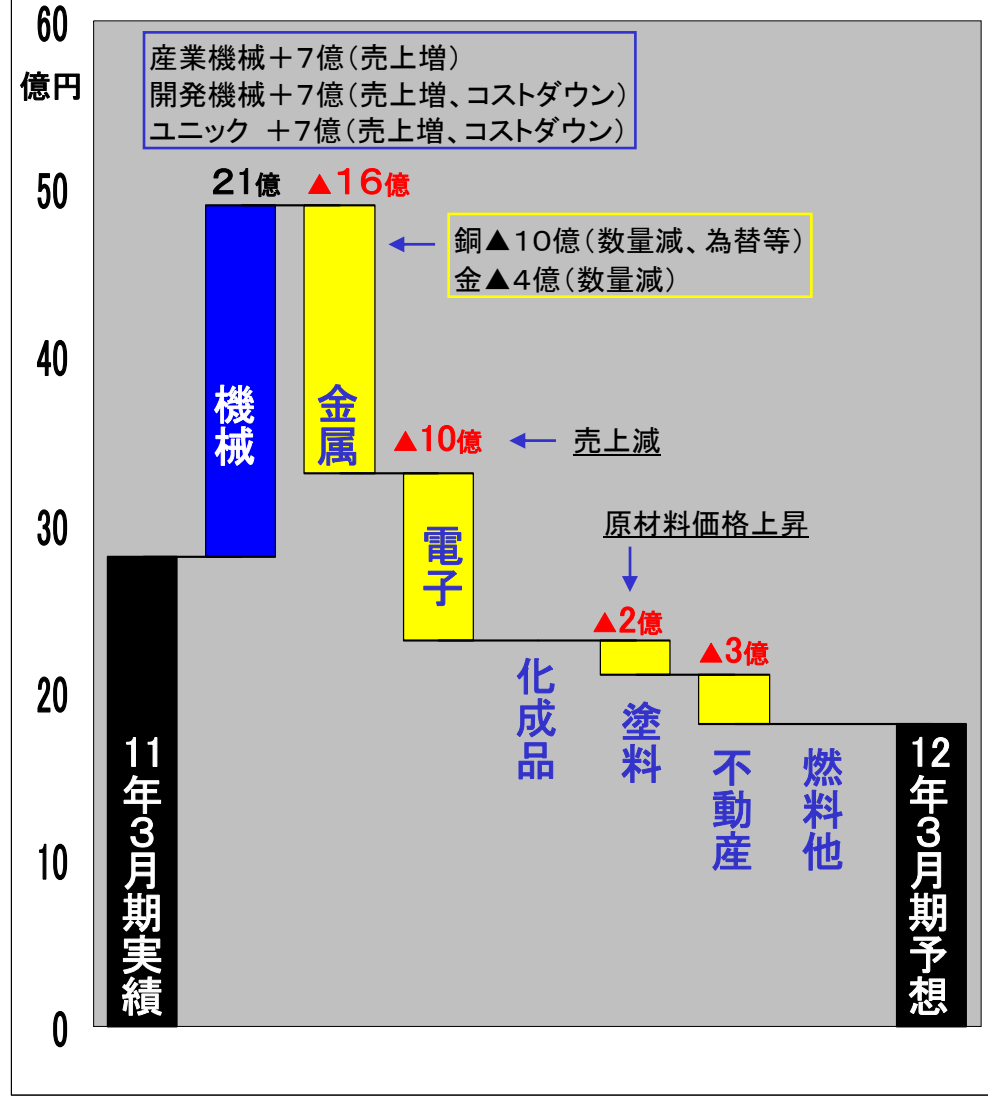
## 売上高

1656億 → 86億減(5%減) → 1570億



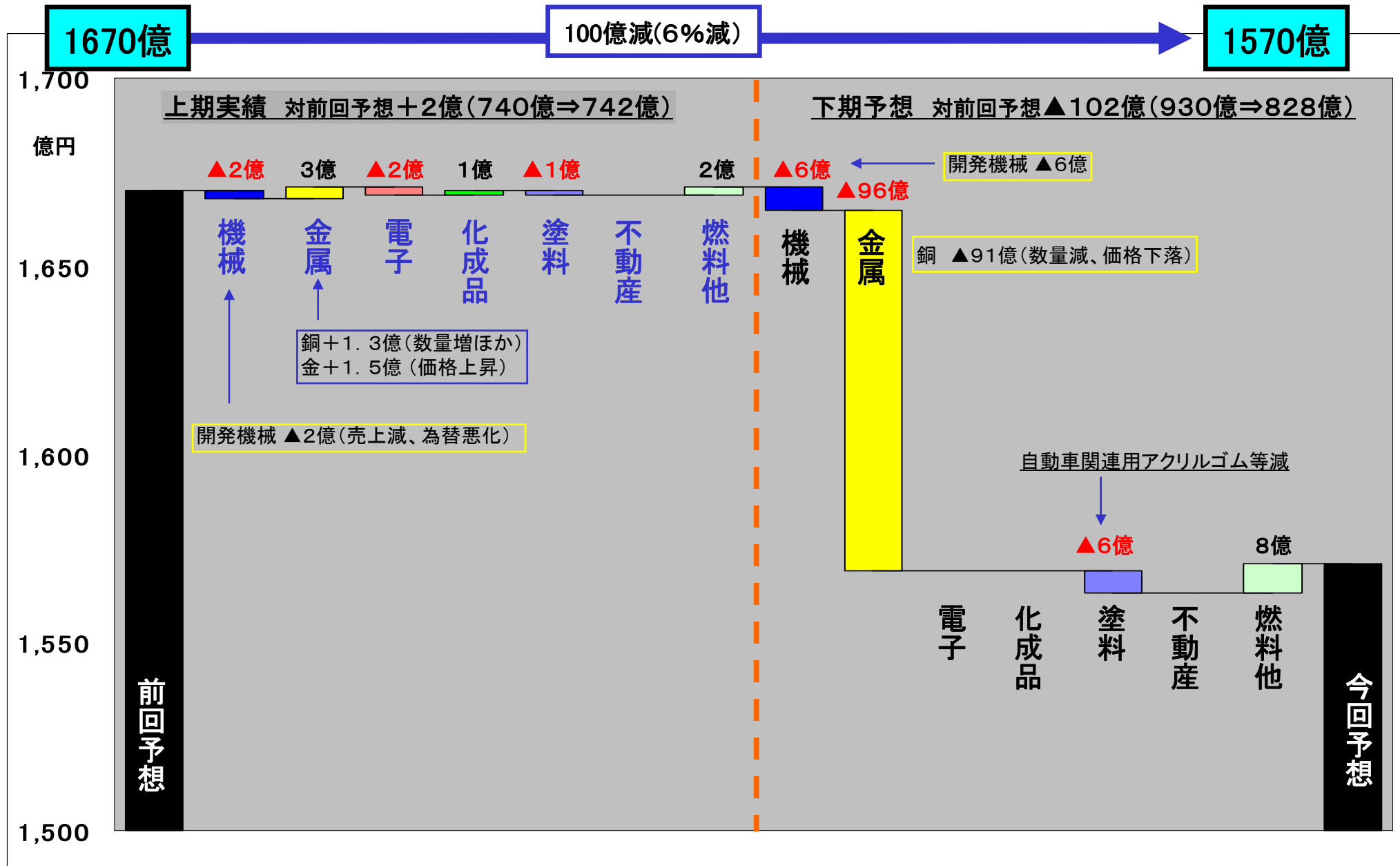
## 営業利益

28億 → 10億減(36%減) → 18億

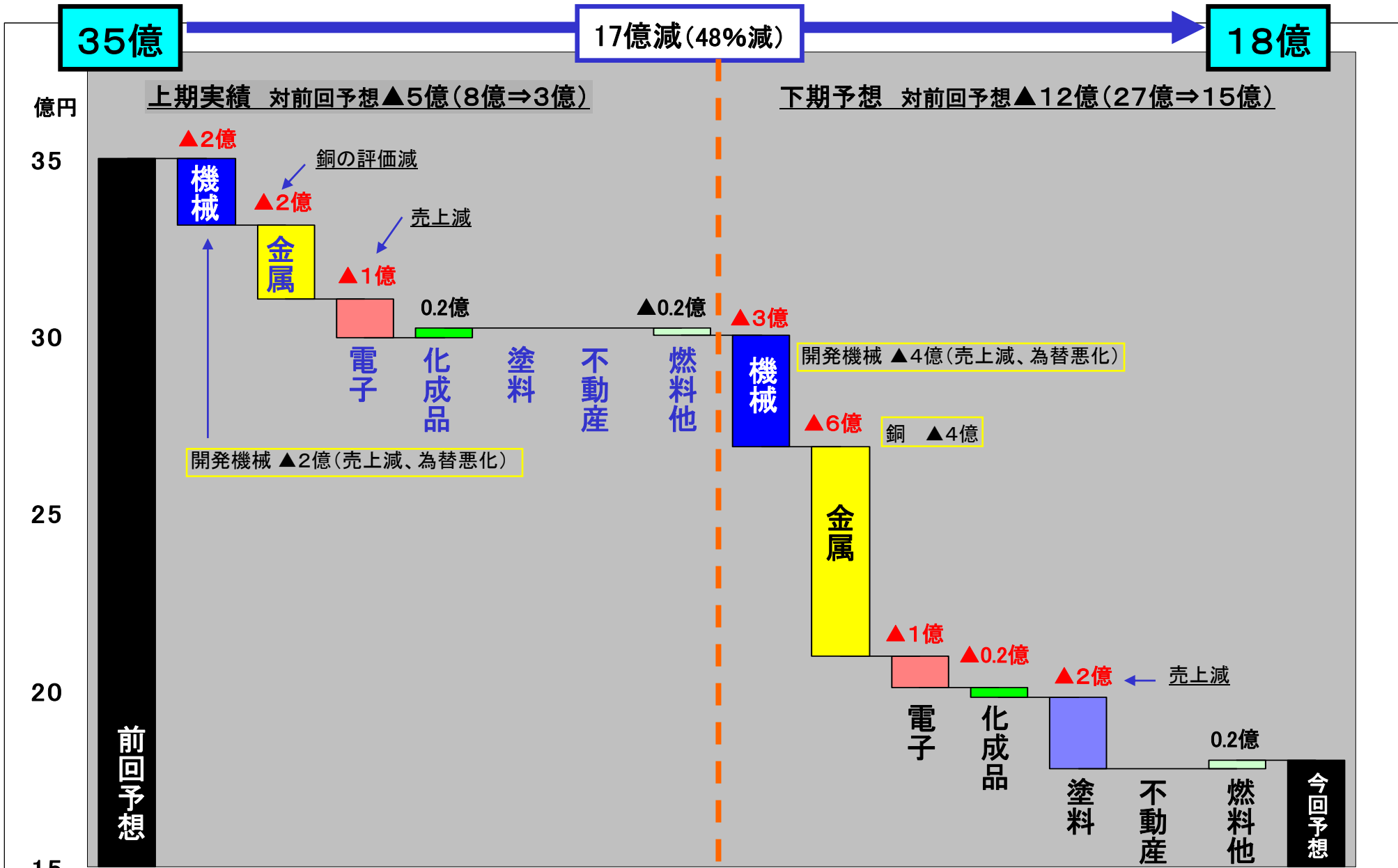




# 部門別業績予想【売上高】の増減(連結)／対前回予想(8月5日)



# 部門別業績予想【営業利益】の増減(連結)／対前回予想(8月5日)



## 設備投資の状況(連結)

(単位:百万円)

設備投資額	10年3月期	11年3月期		12年3月期	
		(第2四半期)	(通年)	(第2四半期)	(通年予想)
機械部門	1,501	/	572	/	750
金属部門	204		148		400
電子化成品部門	226		136		550
塗料部門	58		339		250
不動産部門	235		307		1,700
燃料部門その他	707		426		250
設備投資 合計	2,936		952		1,932

## 減価償却費の状況(連結)

減価償却費	3,010	1,634	3,043	1,514	3,300
-------	-------	-------	-------	-------	-------

## 研究開発費の状況(連結)

研究開発費	1,861	1,219	2,224	1,331	2,300
-------	-------	-------	-------	-------	-------

## 金属製品・為替の状況(連結)

		10年3月期	11年3月期		12年3月期	
			(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(第3,4四半期想定)
銅海外相場(平均)	¢/ポンド	276.7	323.6	369.2	411.5	
	\$/トン	6,101	7,135	8,139	9,072	7,500
円相場 対米ドル平均(円/\$)		92.85	88.94	85.71	79.80	76.00
《古河メタルリソース(株)生産販売》		10年3月期	11年3月期		12年3月期	
			(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(通年予想)
銅 生産量(t)		84,455	46,864	89,523	31,579	77,163
銅 販売量(t)		89,456	45,903	89,176	34,975	81,963

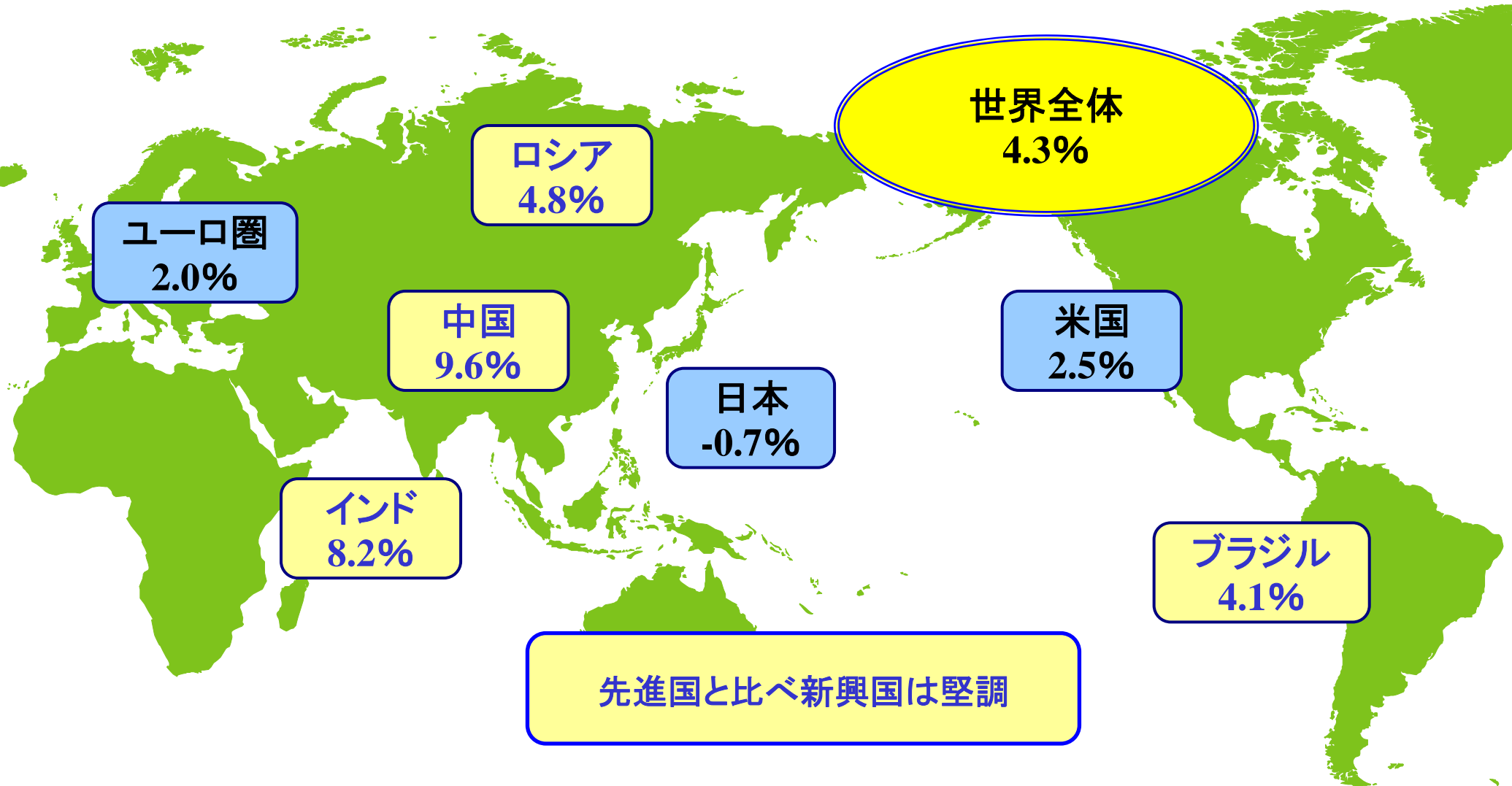
減産継続(△3%)  
震災による操業停止

震災による操業停止  
(7月より操業再開)

## 従業員の状況(連結)

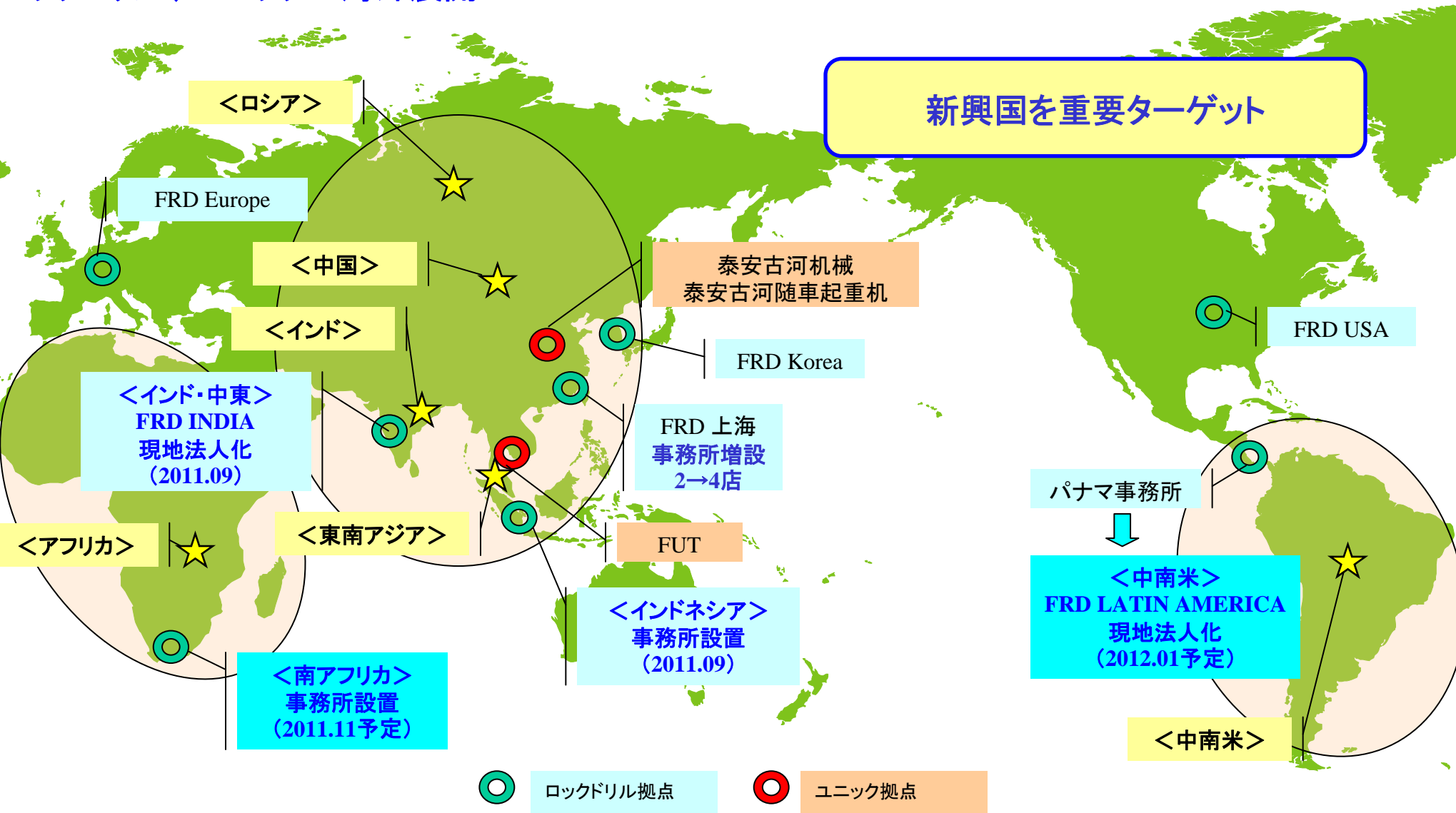
	09年3月末	10年3月末	11年3月末	11年9月末	対11/3末増減
人員(名)	2,290	2,670	2,728	2,770	42

2011年の経済成長率見通し



※国際通貨基金(IMF)6月発表資料より

ロックドリル、ユニックの海外展開



## ロックドリルの海外展開

### ■ インド、パナマ駐在員事務所を現地法人化

- ・現地法人化により、即納体制を強化
- ・販売・サービスも強化

#### FRD LATIN AMERICA (2012年1月設立予定)

中南米を管轄

- ・鉱山投資が活発なチリ、ペルー
- ・インフラ投資が活発なブラジル を重点的に展開

#### FRD INDIA (2011年9月設立済)

インド・中近東を管轄

- ・活発なインフラ整備を進めるインドに展開

### ■ インドネシア、南アフリカに駐在員事務所を新たに開設

- ・将来有望市場として現地密着

### ■ 中国事務所増設(2→4店)

- ・北京、成都のほか、広東、西安に増設済み



ロックドリルの海外展開



油圧ブレーカ

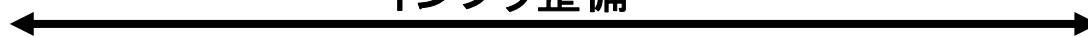


クローラドリル



ダウンザホールドリル

インフラ整備



小型

鉱山開発

大型

インフラ整備や鉱山開発で使用されるロックドリル製品



ロックドリルの海外展開(中南米)

重点市場 : チリ、ペルー、ブラジル

■ チリ、ペルー

→ 鉱山開発が活発化  
(投資総額は今後5年間で約6兆円)

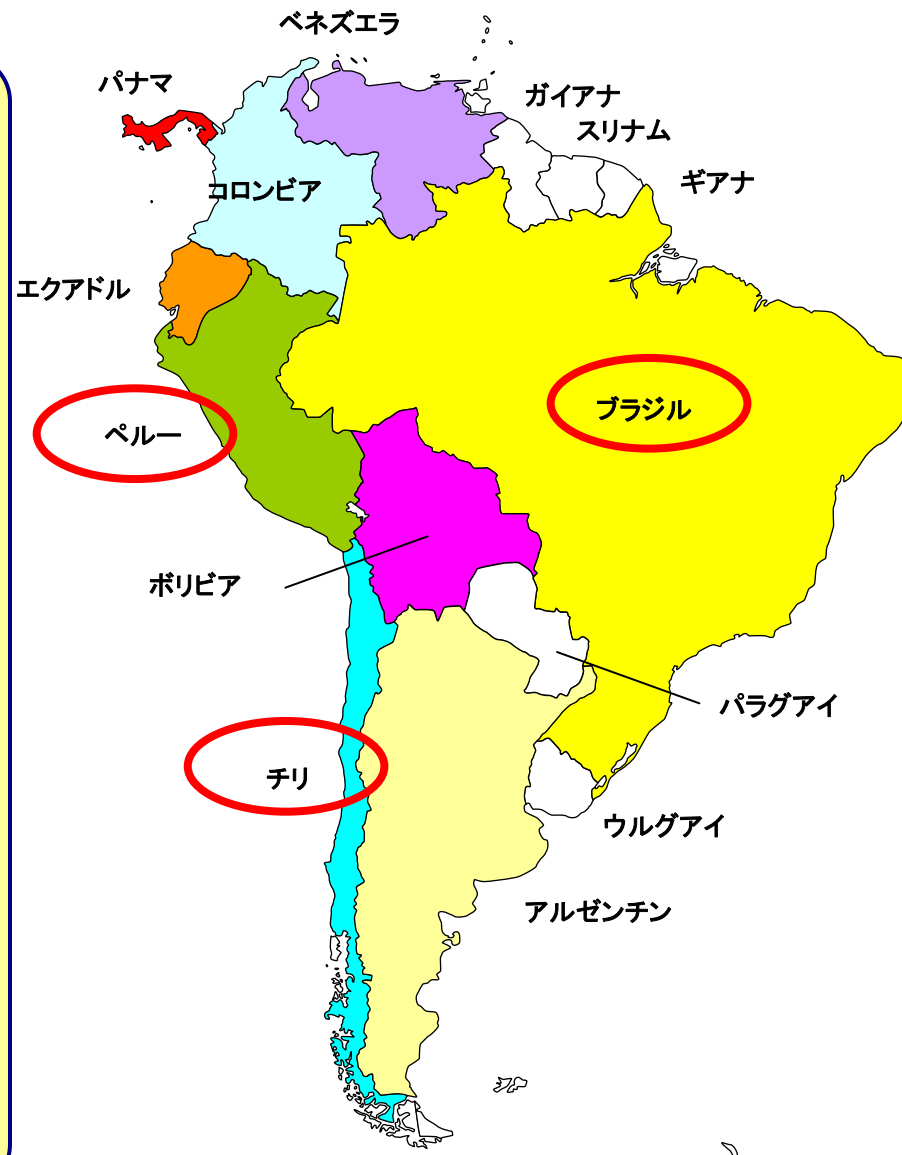
■ ブラジル

→ W杯(2014)、オリンピック(2016)に伴う  
インフラ投資が活発化  
(交通インフラ総額は約10兆円)



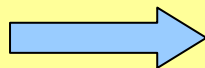
ターゲット

- ・大手ゼネコン及び大手鉱山会社 → ×
- 大手競争メーカー2社が完全に占有
- ・中堅ゼネコン、中堅鉱山、セメント会社 → ○
- 当社のターゲット
- ・中小建設業者及び小規模鉱山 → ×
- コスト合わず

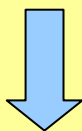


## ユニックの海外展開

先進国市場  
⇒ミニ・クローラークレーン



新興国市場  
⇒コストパフォーマンスの高いクレーン



折り畳んで移動



入り組んだエントランスホールでも



作業スペースが狭くても



室内ホールで絵画も

新製品の国内市場投入

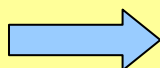
■ トンネル工事用電気集じん器

ターゲット : トンネル工事

市場特性 : 参入メーカーが少なく、高コストなバグフィルターが普及

差別化 : バグフィルターに比べ、ランニングコストを大幅低減

2010年9月  
販売開始



大口受注済み  
下期納入予定



トンネル工事用電気集じん器(e'-DUSCO240)

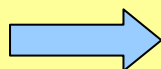
■ 一軸ねじポンプ

ターゲット : 食品業界

市場特性 : 1社がほぼ独占

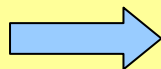
差別化 : 従来機と比べ、小型化を実現し部品点数を大幅削減  
メンテナンス性、洗浄性も向上

2010年6月  
小型機 販売開始

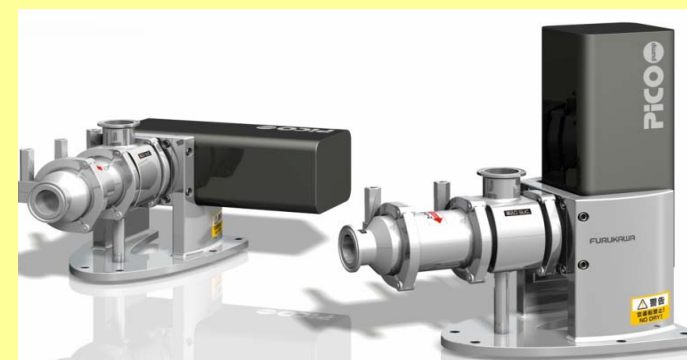


小袋充填機向け  
大手食品メーカーに納入済み

2011年5月  
中型機 販売開始



製造ライン向けに展開中



小型化を実現した一軸ねじポンプ(PICO PUMP)

## 新たな事業基盤の創造

### ■ 造粒機 (ブリケッティングマシン)

ターゲット : 低品位炭

市場特性 : 世界の石炭埋蔵量の約半分が低品位炭

低品位炭: 高含水率で発熱量が低く、脱水すると自然発火しやすくなるため、利用しにくい

低品位炭を改質して石炭火力発電等の燃料に利用  
する技術開発が活発化

→ 改質炭を造粒するための造粒機が必要

2006年

低品位炭改質プロジェクトがインドネシア・カリマンタン島でスタート  
このパイロットプラントの造粒プロセスに当社の造粒機を納入

今後

様々な低品位炭改質ビジネスが商業化段階に移行  
商用プラント向けの高性能・大型造粒機の需要が拡大



需要を見据え、改質炭造粒機を産業機械事業の柱に



改質炭造粒機 (ブリケッティングマシン)



造粒した改質炭のサンプル

## 震災復興で活躍が期待される機械製品

### ■ 下水処理

→ 汚泥ポンプ、生活排水膜処理ユニット



### ■ 砕石・セメント鉱山

→ クローラドリル、ブレーカ、破碎・粉碎機



### ■ 物流、建築土木現場

→ ユニッククレーン、圧碎機



### ■ 道路(橋、トンネル)

→ 橋梁、トンネルEP、ドリルジャンボ



### ■ その他

→ オーシャンクレーン、ミニ・クローラクレーン



当社が得意とする製品のさらなるシェア拡大を図る

## 新たな事業基盤の創造

### ■コイル

コアを自社生産できる技術を活かしニーズに沿ったコイルを提供  
特に自動車部品用では多くの納入実績を持つ

#### ＜今後の展開＞

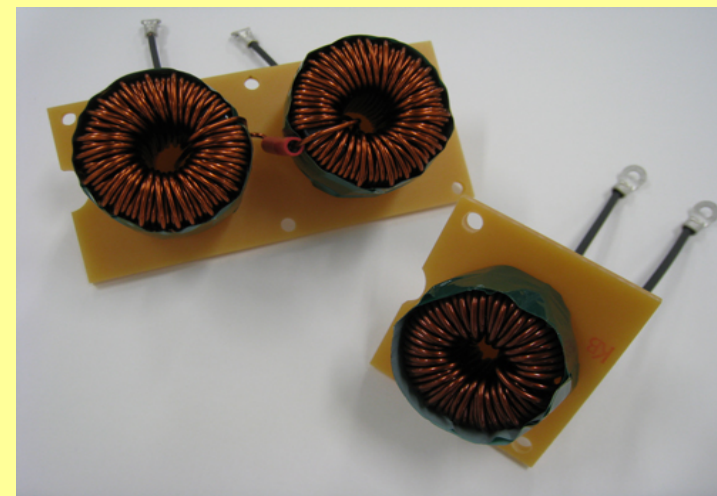
車載充電器向けリアクトル  
→試作納入していたリアクトルを2012年量産開始

電動パワステ(EPS)向けフィルタコイル  
→EPS普及率拡大に伴い数量増

その他、エンジンコントロールユニットや電子制御ユニットなど向けに  
コイルの需要は拡大する見込み



自動車、省エネ家電向けに、引き続きコイル事業を拡大していく



充電器用リアクトル

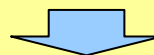
## 窒化ガリウム(GaN)基板



4インチ、2インチGaN基板

4インチGaN基板の開発に成功

⇒今後、結晶長尺化によるコストダウンを図る



高輝度LED、パワーデバイス向けをターゲット

## LuAG結晶を用いたPEM(次世代乳がん検査装置)



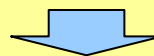
LuAG結晶とPEM装置(試作2号機)



NEDOプロジェクトでPEM試作機(2号機)完成

現在、臨床試験を実施中

⇒今後、薬事申請を行う予定



放射線診断可能な医療機関をターゲット

## 放射線測定器(ガンマスポッター)



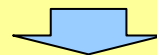
放射線測定器(ガンマスポッター)



新たに開発した高密度のシンチレータ結晶

2011年11月

シンチレータ結晶製造技術を応用し放射線測定器を開発・販売開始



主に、行政、企業向けに販売

<同製品の優位性>

- ・結晶密度が高く放射線の検出効率がよい  
→高感度の測定が可能
- ・採用した結晶は潮解性がなく水分・湿気に強い
- ・-10℃から+40℃の環境下で正確に測定が可能
- ・リアルタイムで瞬時に測定可能  
→複数個所の測定も短時間でOK
- ・JIS規格や日本電気測定器工業会の仕様に準じて対応  
→安心・信頼



## 安定調達のための鉱山投資

### ■ ジブラルタル鉱山(カナダ)

2010年3月

双日、DOWAと共同で同鉱山の25%の権益を取得(内、当社は25%)



2011年11月、同鉱山の設備拡張(1.6倍)を決定

2012年末までに工事を完了し、2013年より本格的な増産を開始

年間生産量(精鉱量)

現在 18万トン(銅量約5万トン)



2013年 28万トン(銅量約8万トン)

今後も

- ・銅鉱石の安定調達の強化
- ・厳しい買鉱条件に耐えうる事業構造の構築(鉱山権益の拡大)

を図るべく、鉱山投資案件を注視していく



露天掘り採掘現場



粗鉱から最終製品の精鉱を製造するプラント

## 過去5年間の部門別実績及び業績予想 (2011年11月4日発表)

## 〔売上高〕

(単位:百万円)

	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期(予想)
機械部門	67,795	75,841	62,639	44,313	47,025	53,650
(産業機械)	(14,119)	(17,331)	(15,836)	(12,783)	(10,655)	(13,250)
(開発機械)	(33,046)	(37,497)	(29,427)	(20,386)	(23,880)	(25,200)
(ユニック)	(20,629)	(21,012)	(17,375)	(11,142)	(12,490)	(15,200)
金属部門	84,753	97,519	68,786	71,132	79,979	65,000
電子化成品部門	15,902	15,276	11,388	10,995	12,223	11,300
(電子)	(9,364)	(8,751)	(5,568)	(5,969)	(7,147)	(5,900)
(化成品)	(6,538)	(6,525)	(5,820)	(5,025)	(5,076)	(5,400)
塗料部門(※)	—	—	—	3,692	15,040	15,000
不動産部門	2,936	2,758	2,386	2,043	1,577	1,200
燃料	28,206	20,735	15,452	9,893	9,004	10,050
その他	1,154	1,294	1,204	854	785	800
合計	200,749	213,426	161,857	142,925	165,638	157,000

## 〔営業利益〕

(単位:百万円)

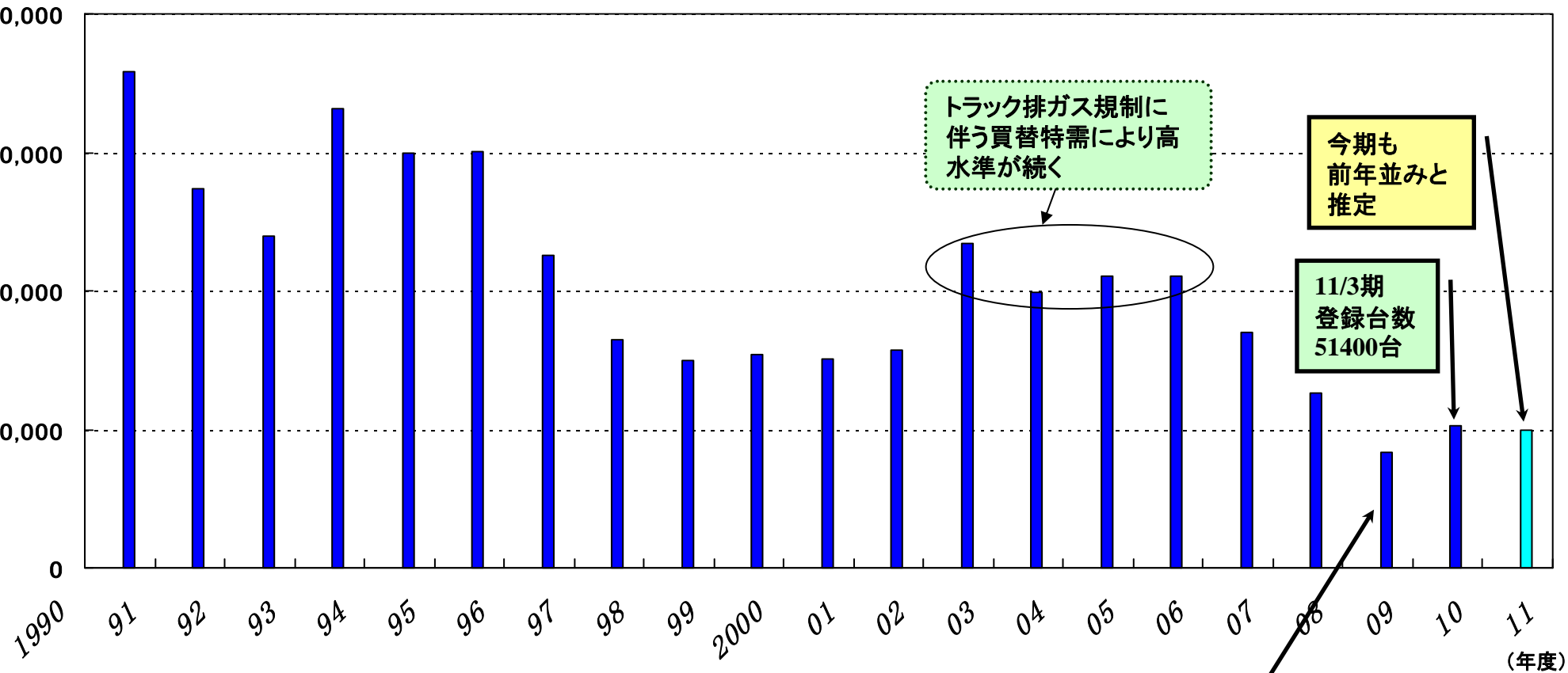
	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期(予想)
機械部門	5,901	6,837	1,733	△3,022	△566	1,500
(産業機械)	(72)	(837)	(767)	(433)	(△29)	(650)
(開発機械)	(3,120)	(3,702)	(255)	(△2,584)	(△350)	(300)
(ユニック)	(2,708)	(2,297)	(710)	(△870)	(△186)	(550)
金属部門	8,837	6,206	23	3,224	1,494	△100
電子化成品部門	2,088	1,455	206	761	1,549	500
(電子)	(1,386)	(984)	(4)	(657)	(1,279)	(200)
(化成品)	(701)	(470)	(201)	(104)	(269)	(300)
塗料部門(※)	—	—	—	△19	△93	△300
不動産部門	839	749	706	1,128	635	350
燃料	△114	△430	202	△29	△56	0
その他	△301	△228	△304	△376	△92	△100
調整額	△351	△181	△264	△69	△49	△50
合計	16,898	14,407	2,303	1,597	2,821	1,800

※09/12に㈱トウペ(塗料事業)を連結子会社化

※「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用(11年3月期)により10年3月期の数値を同基準に置き換えて表示しています

## 国内普通トラック登録台数推移

(単位:台数)



トラック排ガス規制に伴う買替特需により高水準が続く

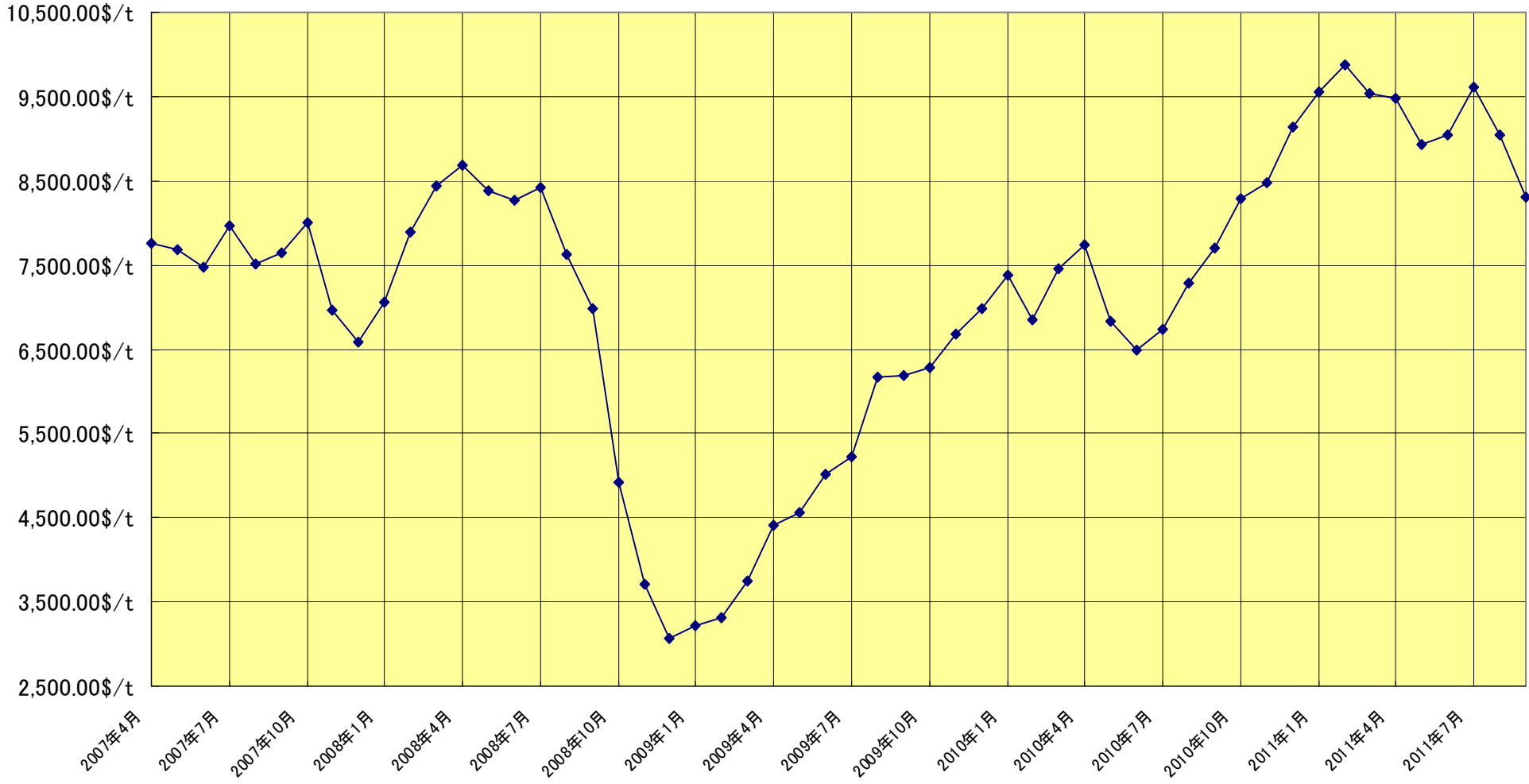
今期も前年並みと推定

11/3期登録台数51400台

10/3期登録台数41600台  
登録台数5万台割れは昭和36年度以来の低水準

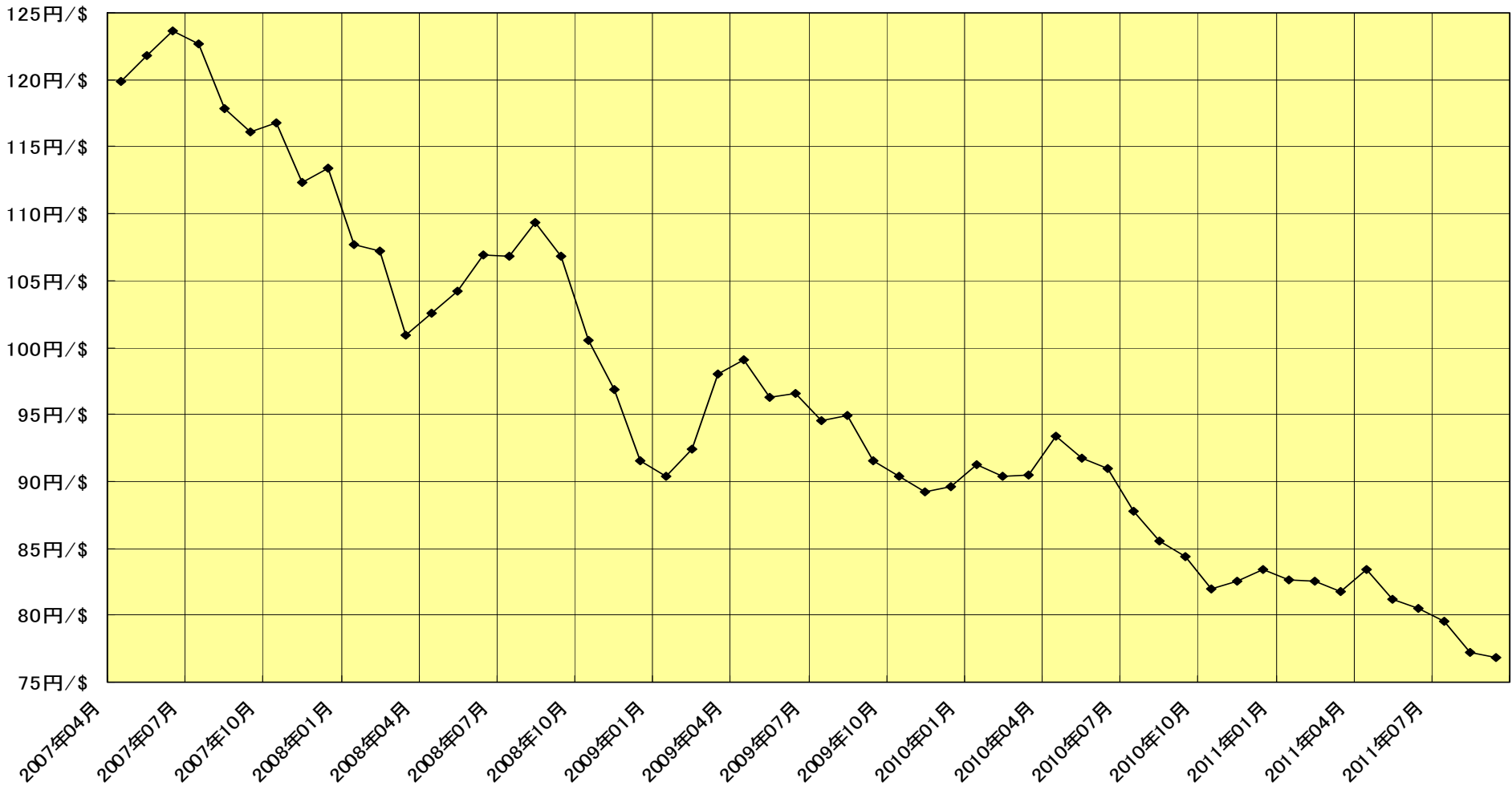
※当社調べ

銅価格海外相場推移(月中平均)



※当社調べ

為替相場推移(月中平均)



※当社調べ